

第204回理事会を開催

平成22年度 全連小活動方針等が審議・承認される

第204回理事会が2月17日(水) 18日(木)、東京・ホテルフロラシオン青山で開催された。

第1日目は、平成21年度の事業報告と平成22年度の活動方針並びに各部活動案が審議され、第205回理事会への提出が承認された。

第2日目は、「子どもと向き合う時間の確保のための工夫」についての情報交換と千葉大学教授の明石要一氏による「学校教育の変革期にあたり学校管理職に期待すること」の講演があった。

午後、拝謁並びに皇居特別参観を実施し天皇陛下のお言葉を賜り、充実した理事会が終了した。

——天皇陛下のお言葉——

このたびは、全国連合小学校長会の役員の方々とお会いしたことをうれしく思います。

将来を担う児童が、心身共に健康に育つよう尽力くださり、心強く思っています。

くれぐれも元気に、学校の運営や児童の教育に力を尽くされることを願っています。

——向山会長のお礼言上文——

大内山の松の緑も、歳を重ねて美しく映え、天皇陛下、皇后陛下におかせられましたは、ご機嫌麗しくあらせられますことを、心よりお慶び申し上げます。

今日の佳き日、私も全国連合小学校長会の役員一同に拝謁の栄を賜りましたこと、感激の極みであります。

この栄誉を胸に、教育への志を高く掲げ、児童の指導にあたってまいります。そして、新しい時代を切り拓き、国際社会に貢献できる日本人を育てるために、小学校教育の充実に努め、もって国民の信託に応えられるよう、全力を尽くす覚悟でございます。

天皇陛下、皇后陛下におかせられましたは、ますますお健やかにあらせられますよう、また天皇家のご家族のご健勝と、ご皇室の弥栄を心よりお祈り申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。

誠に、ありがとうございました。

進行 両角 庶務部長

1 開会のことば 都築 副会長

2 会長あいさつ(要旨) 向山 会長

本日はご多用の中、第204回理事会にご参集いただき、お礼申し上げます。さて、限られた時間の中で、次のことについて話をする。

平成22年度の文科省予算の内示があり、国会で議論されている。全連小が要望する定数改善

については、文科省要求の5,500人が結果的には、4,200人となった。まだ十分ではないが、緊急性の高いところから配置がなされ、効果があると考えている。英語ノート・理科支援員等については、事業仕分けで一時廃止とされたが、私たちの要望活動等で、再来年度当たりまで存置するという事になった。大変大きな予算をとれたわけだが、私たちはこれが財政的厳しさ

につながることも考えなければならない。

平成23年度の予算要望については、すでにスタートしていて夏までが勝負である。定数改善については、団塊世代の頃と比べれば、国民的理解で必ずしも賛成が多いわけではない。予算要望に当たっては、国民に対し分かりやすい説明と説得が必要である。

調査等の縮減については、文科省は悉皆の隔年化や圧縮等を行っている。自治体によって差があるが、残念ながら調査ものが減少していないのが都道府県・市区町村である。ぜひ、各都道府県で調査ものの縮減・簡素化に取り組んでいただきたい。

新政権は、教員養成についての検討を始めるとのことで、養成期間の問題（4年制から6年制へ）・免許更新制に替わる新しい研修制度を考えている。今後、私たちは意見表明をしていく予定である。

新学習指導要領移行期間の1年目が終了する時期である。40年ぶりに学習内容を増やした改訂である。文科省・都道府県教育委員会・私どもにとっても初めての経験である。補助教材の未使用、あるいは理科や算数の指導すべき内容の未履修があってはならない。ぜひ、3月までに点検をしていただきたい。

新教育課程の先行実施が、まもなく2年目を迎える。この1年間、私は新学習指導要領改訂の趣旨の徹底について、「変わるべきことは何か」ということを強く話してきた。来年度は、変わるべきことの改善と併せて「変わらぬもの」の大切さについても話をしていきたい。新しさだけを追いかけることでは、我が国の初等教育の伝統の継承という点で、マイナスになってしまうということを訴えていきたい。

学習評価については、中教審のワーキンググループが、審議のまとめに入りホームページにも掲載されている。私は、一貫して簡素で効率的な学習評価について話してきた。今、小学校教員の年間業務量の8.5%が、学習評価にかかわる仕事である。これ以上、この業務量を増やすべきではない。特に、「関心・意欲・態度」については、国がモデルを作るだろうが、都道府県でも使いやすいものを考えていただきたい。

障害者制度について、鳩山政権ではこの夏までに大きな改革を行おうとしている。福島担当大臣のもとに、教育の分野では統合教育をしよ

うという発想でいる。保護者が希望すれば、どの学級にも入れるという意見をもとに検討が進められている。全連小では、3月前後に文科省を通して意見を出したいと考えている。

最後になるが、東京都では土曜授業にかかわる通知が1月に出された。区市町村教委や学校は、授業時数の確保や土曜の午後に会議を入れるなど、選択肢が広がるとの受け止め方をしている。この後の理事会について、よろしくお願ひしたい。

3 報告

(1) 事業・会計報告及び監査報告(中間)

両角 庶務部長 中川 会計部長 金子 監事

(2) 第61回熊本大会について 速水 県会長
10/22、23に開催し、全国から約3,000名の参加を得て成功裡に終了した。参加会員の指導性を確かめる大会になったことに感謝する。

(3) 要望・要請活動について 露木 対策部長
11月に教職員定数改善・少人数学級の実現を求める要請を衆参議員に対し行った。行政刷新会議に対する意見書を審議会等へも提出した。

また、12月には、小学校教育の充実・改善に関する要望書をもって、文教関係の議員に要望活動を行った。3月に定数改善と教員の資質向上に関する意見表明を文科省に行う。

(4) 広報活動について 高橋 広報部長

全連小のホームページが改善され、アクセス件数が大きく伸びている。また、教育予算が厳しい中、引き続き「小学校時報」「教育研究シリーズ」の購読をお願いしたい。

4 議事 議長 富田 副会長

(1) 平成22年度全連小活動方針について

※全連小活動方針(案) [概略] 向山 会長

知識基盤社会化やグローバル化が進む今日、教育においても教育振興基本計画が策定され、今年4月より新学習指導要領の先行実施が始まった。こうした中、「生きる力」をはぐくむ教育が強く求められ、校長は自らの使命を自覚し、志を高く掲げリーダーシップを発揮して活力ある学校づくりに努めていかなければならない。平成22年度は下記の活動を重点として推進する。

- ① 学校経営の充実
- ② 研究活動の充実
- ③ 「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成・実施・評価・改善
- ④ 教職員の資質・能力の向上

⑤ 教職員の処遇改善

〈第205回理事会への提案を承認〉

※対策・調査研究・広報の各部活動(案)[概略] 〈対策活動(案)〉

露木 対策部長

教育諸条件の整備を促進し、小学校教育の一層の充実・向上を図る。その上で公立小学校教職員定数の改善を求め、子どもと向き合う時間を確保し、きめ細かな指導を充実しながら、児童一人一人に確かな力をはぐくむ活力ある学校を目指して、以下の対策活動を行う。

- ① 教職員定数・学級編制等の改善
- ② 施設・設備・教材等の整備・改善
- ③ 教職員の資質・能力の向上のための条件整備
- ④ 学校の自主性・自律性の確立に向けた条件整備
- ⑤ 行財政改革等への対応の充実・推進
- ⑥ 教職員の処遇改善
- ⑦ 退職時及び退職後の処遇改善
- ⑧ 学校週5日制における生涯学習の視点に立った施策の充実
- ⑨ 教科書無償給与制度の堅持
- ⑩ へき地・小規模校の教育諸条件の整備充実
- ⑪ 家庭・地域社会への啓発・広報活動

〈調査研究活動(案)〉

有馬 調査研究部長

「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成と実施・評価及び改善に努めるとともに、子どもと向き合う時間を確保し信頼される学校づくりを進めるために、以下の調査研究活動を行う。

- ① 教育改革に関する調査研究
- ② 教育課程の実践的研究
- ③ 教職員研修の充実・推進
- ④ 人権教育の充実・推進
- ⑤ 特別支援教育の充実・推進
- ⑥ 生徒指導・健全育成の充実・推進
- ⑦ 教育改革等への積極的な対応
- ⑧ 全連小研究協議会の推進

〈広報活動(案)〉

高橋 広報部長

各部並びに各都道府県校長会との連携を一層密にし、併せて広く小学校教育振興のための世論の喚起を目指して、以下の広報活動を行う。

- ① 全連小活動に関する敏速・正確な情報の提供
- ② 学校経営に関する適時・適切な資料及び全連小活動に関する詳細な情報の提供

③ 学校経営に関する研究資料の提供

④ インターネットによる情報の発信

⑤ 情報宣伝活動の一層の充実・推進

〈以上、各部案の第205回理事会への提案を承認〉

(2) 平成22年度基金会計について〔概略〕

中川 会計部長

平成22年度も基金を拠出していただき、利息を有効活用し、全連小の活動が活発に進むようにする。そのため、果実会計の支出項目及び額は、試算表に基づき支出する。なお、この臨時措置は、毎年度検討する。 〈承認〉

5 連絡

- (1) 第62回北海道大会について 福田 道会長
会期 平成22年9月30日(木) 10月1日(金)
開催地 札幌市
- (2) 第63回山形大会について 千葉 県会長
会期 平成23年10月20日(木) 10月21日(金)
開催地 山形市
- (3) 平成22年度全連小海外教育事情視察について 大内 事務局長
期日 平成22年7月31日～8月10日
視察地 ニュージーランド・オーストラリア
- (4) 拝謁並びに皇居特別参観について 大内 事務局長

6 情報交換

「子どもと向き合う時間の確保のための工夫」

司会 大道 常任理事

〈情報提供〉

露木 対策部長

今年度の三地区対策担当者連絡協議会のテーマの一つとして「子どもと向き合う時間の確保について」を取り上げた。調査結果では、8割の都道府県で、教員の子どもの向き合う時間が短くなっている。その原因は、①調査・報告文書の増大(市区町村教委から)②授業時間の増加(先行実施により)③保護者への個別対応④会議や出張の時間⑤安全対策(登下校時)⑥配慮を要する児童への対応等である。

事務作業の見直し例としては、①集金業務の変更、教材費の現金徴収から銀行の引き落としにする。②IT化の導入、通知票や週の指導計画、名簿等を作成する。③労働基準法の改正に伴う勤務時間の変更、会議の精選やPCの掲示板を活用し職員朝会を簡略化する等がある。

また、校長会として、地教委等からの調査・報告文書の精選、事務職員の職務の見直し、

IT化の推進等を要望している。

人的措置については、特別に配慮を要する児童が在籍する場合、学校生活相談員等の介助のための人員確保、教員の定数加配等の要望を行っている。

<情報交換>

事務作業の思い切った見直しや人的措置、組織としての支援体制、よりよい職場づくりなど、行政・校長会・各学校の工夫改善と課題等を視点にして、14グループに分かれ情報を交換した。

なお、情報交換の記録をまとめた報告は、後日、各都道府県小学校校長会事務局へ送付の予定である。

7 講演

「学校教育の変革期にあたり学校管理職に期待すること」(要旨)

千葉大学教授 明石 要一氏

教師は、時代が変わったことを保護者に分かりやすく説明することが大事である。時代は次のように変わってきたと私は考える。

①団塊の世代で孫をもたない人が増え、教育に関心がない有権者が増えている。だから教育にお金が入ってこない。大学全入時代が来る。親も教師も「受験」の印籠が使えなくなるので困る。②地域が変わった。地域の様子を見極め学校運営しなければならなくなった。③親が変わった。今の親は、学校を尊敬しない。だから、学校を休んで旅行にも行く。49歳以下の親は、テレビ時代に育ち、生体験と疑似体験の区別がつかない。だから子どもが外で遊んでいなくてもおかしいと思わない。時代が変わり、地域が変わり、親が変わってきた。それを受けて子どもが変わってきた。

次に、子どものおかしさについて話す。①バスケットボールはできるが、バレーボールはできない。どこにサーブが来るか分からない想定外のスポーツは苦手である。幼児期の遊び体験が不足している今の子どもは応用が利かない。②シュートを打たないで、すぐに横パスをする。自己責任をとらないのは、失敗を認めない文化が多いからである。自分でチャレンジしてシュートを打つような、自分の考えを表現するような文化を学校でつくってほしい。③ミーティングができない。ハーフタイムになると、自分

たちで相談しないで、監督に指示してもらって指示待ち人間が増えた。特に3・4年生のころの放課後体験が乏しいため、意思決定ができない。

④肉食女、草食男は小学校から始まっている。運動会の応援団長になる男が減った。ポジションが分からない、話し相手がいない男たちが増え、手間がかかる。地域社会で徒党を組ませることが大事だと、学校は地域にメッセージを出してほしい。⑤子どもの大人化が進んでいる。子どもが手帳を持っていたり、栄養ドリンクを飲んでいたりする。小学生のころは、とことん遊ばせ子どもの時代を作っていたいただきたい。

この30年間、子どもたちは放課後を失った。そのため、①体力の低下 ②食欲の低下 ③人間関係能力の低下が進んだ。出会う大人も減り、父、母、先生がほとんどである。もっと地域に出て、人とかかわることが大切である。

放課後が消えると、子どもに体験格差ができた。これまで教師がその格差を縮めてきたが、今では四苦八苦している現状がある。体験格差が栄養格差も生んだ。学校のミッションは、「家庭や地域にできた格差を是正することの必要性を保護者や地域に伝えていくこと」である。

もう一つは、「どうすれば、子どもに勉強をさせることができるか。」である。その答えは、①教師が(第三者)がほめること ②教師の教え方が上手であること ③よきライバルをもたせること ④就きたい職業をはっきりさせること ⑤子どもたちの生き方を変えることである。

テスト前の勉強方法をみると、今の中学生はすぐにあきらめてしまう子が4割もいる。勉強しなくても何とかなると考える子が多くなっているが、こつこつ努力し履修させることが大事である。さらに、一歩進んでポイント学習を行い、習得・活用することができる子どもへと生き方を変えていただきたい。

2つの風と1つの色をつくってほしい。2つの風とは、「家風」「校風」、1つの色とは、「地域の色」である。家自慢、学校自慢、地域自慢をすると子どもの自尊感情が高まってくる。学校には、このトライアングルで子どもを育てる先駆者となっていただきたい。

8 閉会のことば

都筑 副会長